

久米地区寿会連合会の活動状況

- 一月一日 『久米寿号(第一二六号)』発行  
『久米地区どんど焼き』に『三世  
代交流活動』で参加
- 一月十一日 『久米地区新年交流会』に参加  
輝きクラブ周南徳山支部理事会  
久米地区文化祭実行委員会
- 一月十九日 輝きクラブ周南徳山支部理事会  
久米地区文化祭実行委員会
- 二月四日 輝きクラブ周南徳山支部理事会  
久米地区文化祭実行委員会
- 二月九日 輝きクラブ周南徳山支部理事会  
久米地区文化祭実行委員会
- 二月十七日・二十四日(計二回)  
久米小三年生の『木工工作』授業  
に指導協力(久米小学校にて)  
『天神山の草刈り』(久米婦人会  
主唱)に協力参加
- 三月二日 久米地区文化祭実行委員会  
輝きクラブ周南徳山支部理事会  
『久米寿号(第一二七号)』編集  
会議
- 三月十三日 久米地区社会福祉協議会理事会  
『久米地区文化祭』(久米地区社  
協他共催)に協力参加(久米公民  
館にて)
- 三月十八日 『グラウンドゴルフ初心者講習会  
兼練習会』(雨天のため中止)  
『久米地区寿連親睦グラウンドゴ  
ルフ大会』開催
- 三月二十五日
- 三月二十六日

【行事短信】①

久米小三年生の

「木工工作」の指導手伝い

久米地区寿会連合会では、久米小学  
校からの依頼を受け、二月十七日と二  
十四日の二組に分けて、三年生の「の  
こぎりと金づちを使っての木工工作」  
授業の指導手伝いに参りました。  
寿会の有志十一名に加え、久米コミ  
ュニティ推進協議会からも三名の方々の  
御協力を頂いて実施しました。



今年新しい試みとして、学校側が  
児童達の希望を集約して、あらかじめ、①箱、②本立  
て、③イスまたは物置台、の三種類を設定し、その内  
から児童各自が希望の木工工作物を作ることになりま  
した。その時の各児童の「のこぎりの使い方」や「金  
づちを使って釘を打つ」作業を、マンツーマンで助言  
したり、実際に手を取って教えました。

工作物の内、③イスや物置台作りのグループでは、  
その作品の四脚の長さや形状を正確に切り揃えること  
が、児童の腕前ではなかなか難しく、各パーツ部品を  
組み立てた後に台がガタついて、指導役の人がその補  
正に四苦八苦していました。  
孫のような子供さん達とのふれあいも楽しく、加え  
てささやかながら学校のお役にも立てた有意義な二日  
間でした。

感謝の会

東寿会 松岡ひろ子

去る二月十日火曜日、久米小学校で、子供達が、日  
頃お世話になっている地域の方々にお礼をしたいとい  
う「感謝の会」が催され、お招きに預かり出かけて行  
きました。

小学校の玄関には、出席者の名前が書かれたブレ  
ットを持った、可愛い五年生の子供達が、きちんと整  
列して私達を待っていてくれました。私達一人ひとりを  
、三階の会議室まで案内してくれて、入室すると、  
部屋の周りは色とりどりの折紙で奇麗に飾られ、黒板  
にはステキな絵や字が描かれておりました。その中で  
元気な子供達のあいさつのシャワーを浴びました。



テーブルの上には、おはぎがお皿に  
並べられていました。きつといっしょ  
うけんめいみんな作ってくれたのでし  
ょう。出席者が全員揃ったところ、  
熱いお茶と共に薦められ、美味しく  
いただきました。おはぎは一人二個ずつ  
あったので、ひとつは家で待っている  
主人に持ち帰ろうと思っていたので  
が、子供達との会話が弾み、甘い物に  
目がない私は何時の間には全部食べてしまいました。

(一人いい思いをしてごめんなさいね)  
食べ終わった後は、各テーブルでかるた取り、テー  
ブル対抗で方言クイズ、児童全員でリコーダー演奏、合  
唱と次々と私達を楽しませてくれました。この日の為  
に、何日も前から準備に精を出してくれたのでしょ  
うね。その皆さんの思いが私にもひしひしと伝わってき  
て、胸の奥に熱いものが込み上げ、とても寒い日では  
ありませんでしたが、心の中はポカポカと暖まり、すばらし  
い時間を持つ事が出来ました。私の方から子供達に感  
謝状を送りたいぐらいです。

この会を企画されました先生方にもお礼を申し上げ  
ます。本当に有難うございました。  
これからも、私達に元気を下さいね。よろしくお願  
いします。

T G K

上南寿会 斉藤恒郎

「お昼は用意しておくけど、ご飯は炊いてね」  
勤め以外でも家を空けることが多い妻だから、昼食も  
一人でもなることが多い。大抵は残り物の惣菜と定量  
百二十gで冷凍された飯を温めるだけ。外食も勧めら  
れるが、量が多いし出かけるのも面倒だから、これで  
構わない。それなのにこうした気配りをするのは、友  
人と会食後どこかへ回るからなのだろう。私は気にし  
てはいないのだが。

今日のメニューはT G K、妻の得意料理…の筈。何  
故ならば、よく食卓に登るからだ。  
さて、炊き上がった熱い飯を定量、丼に入れる。こ  
飯が少ないからと増やしてはならない。料理のバラ  
ンが大事なのだ。そこへ醤油を少し多目に混ぜる。次  
に刻み葱を入れる。醤油と葱の香りが食欲をそそる。  
常温にしておいた新鮮卵を溶きほぐしご飯にかける。  
これ即ち「卵かけご飯」：T G K。決して卵に醤油を  
入れてはいけない。醤油が卵の味を損なう。シンプ  
ルにしてデリケート。  
「まるで俺みたいだな」「どこが？」

# 短歌・川柳

石田敬枝

赤き実と思いし千両黄色なり  
しあわせ色と亡母が好みき  
腰かがめ雑草をつむ日だまりに  
水仙の花ほのかに香る

清花

化粧してやっと思られる顔になり  
亡き父に似た人で有り影踏めず  
満ち足りて心に鍵を掛け忘れ

くめ・ひばり

たのしみは二人の孫の成長ぶり  
はなしあいあれーねこれーねで進まない

チューリップ



水仙



## 炉辺夜話(十四)

中寿会 片岡 基

三月X日、まだ暗い午前四時頃、寝覚めの寝床で、久し振りに天神山から、ホーホー……ゴロスケホーホー、フクロウの声が聞こえた。珍しいことがあるものと、また暫くまどろみ、明るんできたので窓の外を見ると一面の雪化粧であった。まだちらついている。三月の禿山かくしというが、これもまた珍しいことだ。あのフクロウは雪降りをかこって鳴いていたのだろうか？ さびしげな秋の夕暮れ時などにも聞こえてきたことも憶い出されて、彼にも侘び寂びが分るのかなど思ってしまう。

家前を流れる坂本川には今日もカルガモ夫婦が二組ばかり、さも互いに何か囁き合いながらという風情で餌を漁りに来ている。彼等は車や自転車を通り過ぎても平気だが、歩行者と目が合うと、そそくさと飛び立って行く。僕は餌とりの邪魔をしたくないので、気付けば目をそらし川岸から離れて歩くよう心がけている。セキレイに対しても同じである。

六十五年程前、子供の頃住んでいたあたりでは、若者の間で空気銃で雀を撃つのが流行っていた。休日だったか、空気銃を持ってうろついている若者のあとについてまわっていた時、撃たれた雀が板塀囲いの庭の内にパタパタと落ちていったが、若者は、ワシは取りに入らんから拾ったらあげる、と言って立ち去った。僕は塀の隙から庭に入り、探し回り畑のうねの間へうづくまる傷ついた小鳥をそっと掌にとって家に持ち帰った。すると同居していた母方の祖母が、かって寒い冬の日絶命して道端にころがっていた名も知らぬ野鳥を拾い持ち帰った時、せつせと羽毛をむしって調理して夕飯の膳にのせた祖母が、「かわいそうに」と小さな籠のかごに藁を敷いて入れ、飯つぶなどを与えた。雀は次第に元気になり、数日後、学校から帰るとバスケットはもぬけのからであった。祖母を問い詰めると、その日餌を与えようとフタを開くと、ヒョンと飛び出て、そのままチョンチョンと縁側まで行き、そこで、「ありがとう」と三度おじぎをして飛び立っていったよ。よかったね。とのことだった。――全てとは言えぬまでも昔話の多くが鳥や獣や虫や木や草に感情移入し、同じ世代に生息する存在と認められた時、誕生するのだとしみじみ思う。

## おやじの自慢

中寿会 井上芳男

父も夢みた母もみたは、青い山脈の歌詞、八十近くなつても時折子供の頃を思う。子沢山の私は九番目に生まれた。母は口癖のように子供は多いが、子をくれんかと云われても、どの子もやうとうない皆可愛い。最近のニュースは肉親の殺し合いなど、私にはどうしても理解できない。昔は尊属殺人は重罪だった。父母といろんな農作業の手伝いをしたものである。なかでも冬極寒にワサビの手入れ出荷ほどつらいものはない。水は手が切れるほど冷たい、当時の寒さは今の頃の比ではない。この時よく父が話したユーモアっぽい自慢話がある。

数人で上方へ旅した時のこと、宿につき食事となり美味しい混ぜご飯に刺身が出る。「お女中さんや飯は美味しい魚もええがワサビがないじゃないか」「ワサビは旦那方にしか出しません」「俺達は何時でも食うちよる」女中大変驚いて主人に報告。主人はひら謝りしたとのこと。当時ワサビは超高級食材だった。さらに次がある。「舟が出るどう、舟が出るどう」さかんに聞こえる。どこの食堂でもぎりぎりまで食事はださない。食べ始めても、舟に乗り遅れたら大変なので。ほとんどの客は食べ残す、残飯は高く売れる。左様夕べの混ぜご飯になるのだ。舟が出る出るの小僧も金で雇われた叫び屋である。遅い商魂と言える。昭和三十一年京都で、一年余社長宅に住んだことがある。社長さんは温かい白ご飯しか食べない。夜食の残りを朝出したら大目玉とは、料理人の話。おかげで私は朝から社長の残りで豪華食事にありついた。

## 「行事短信」②

### 久米地区寿連の親睦 グラウンドゴルフ大会

三月二十六日久米総合グラウンドで、二十九名が参加して「久米地区寿連の親睦グラウンドゴルフ大会」が開催されました。

素晴らしい晴天と暖かさにも恵まれ、試合は個人戦で八ホール二ゲームの合計得点で勝敗を競いました。

またホールインワンを一人で三本打った方もおられ、七人で合計九本出ました。



準優勝 小林志津江さん

優勝 中嶋捷紀さん

得点は最高三十四点から五十三点までとなつて、その結果、優勝は二年連続で中嶋捷紀さん(東寿会)、準優勝は一点差で小林志津江さん(北寿会)で、お二人にはそれぞれトロフィー(持ち回り)と賞品が授与されました。

その他の入賞者十二名(三位、四位、五位、六位、七位、十位とその他の五番ごとの飛び賞、ブービー賞、ブービー賞、ブービー賞)に、さらにホールインワン賞として、それぞれ賞品が授与されました。

また、今年も敢闘賞も多くの方に授与されました。さらに今回は久米地区社会福祉協議会からの賞品の提供(一位から十位まで)もあり、楽しい一日となりました。

